

別添： 国土交通省に郵送する要望書（案）

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3 中央合同庁舎3号館

国土交通大臣 北側一雄 殿

### 要望書

日頃、日本の河川事業に力を尽くしておられることに敬意を表します。

さて、ご承知のように、北海道の天塩川では、河川法の改正にともない。平成14年度に天塩川水系河川整備基本方針が策定されたのを受け、平成15年度より、天塩川水系河川整備計画の策定に向けての検討が始められております。責任官庁である北海道開発局では、平成15年に流域委員会を立ち上げ、これまでに5回の委員会を開催するとともに、平成17年2月21日の第5回委員会の決定に基づいて地域意見の聴取を行い、平成17年4月18日に、11名による意見陳述を行ったところです。天塩川の河川整備計画においては、天塩川支流のサンル川に建設が予定されているサンルダムの建設計画が、流域の環境に深刻な影響を与えることから、地域だけでなく全道的な注目を集めており、全体で170もの意見が寄せられました。ダムに明確に反対する意見は全体の2割程度でしたが、それらはいずれも、サンルダムの治水効果や環境への影響を、現在までに得られた資料を用いて科学的・客観的に論じたものばかりであり、これに対して、ダムへの賛成意見の多くは、具体的な検討や裏づけもなく、たんにサンルダムに期待する、といった内容でありました。意見聴取会では、反対意見は3人しか選ばれず、一人10分という限られた時間で意見を述べるのができたに過ぎません。天塩川流域の現在ならびに将来の社会状況からみたダムの必要性、サンルダムの治水効果、必要とされる治水対策、サンルダムの環境への影響など、どれをとっても、このような短時間に限られた人数の意見だけで議論できる内容ではないことは明らかです。またサンルダムの建設によって、在来種であり、貴重な水産資源でもあるサクラマスの上流や産卵場所が大きく損なわれる可能性が高いことが指摘されていますが、これはたんに漁業だけでなく、国が批准している生物多様性条約からみても、慎重に検討すべき課題といえます。

意見聴取によってこれだけ多くの意見が集まったことは、地域住民が、近年、北海道により、「北海道遺産」にも指定された天塩川の豊かな自然環境にいか

多くの夢を描いているかの証左でもあります。そのなかで、サンルダム建設にかかわる根本的な問題がこれだけさまざまに提起された以上、最終的な河川整備計画策定のための合意形成には、今回の意見聴取に応募した者と流域委員会の委員による、個々の問題点についての具体的かつ真摯な検討が必要不可欠と考えます。天塩川流域委員会は、公開されてはおりますが、これまで北海道開発局によって一方的に選定された委員による議論が行われてきただけで、提起されているサンルダムの個々の問題点についての公正で透明性のある議論は一度も行なわれておりません。もし、今後もこのままの状態ですべての委員だけによる審議が続けば、これは、公正さと透明性、住民参加を保障している河川法からみて大きな問題です。また、具体的な検討に必要な資料も、北海道開発局によってこれまで十分に開示されているとは言いがたい状況にあります。

私どもは、天塩川流域の河川整備計画の策定が、公開と透明性、住民参加の原則を貫きながら、費用対効果および環境への影響のどちらからみても、地域住民のみならず日本国民全体からの理解を得られるよう、適切かつ十分な検討をへたうえで、行なわれるべきだと考えます。このためには、すべての情報を開示したうえで、意見聴取に応募した者と流域委員会の委員が、サンルダムの問題に関して徹底的に論議できる検討会を設置していただきたいと考えております。すでに、淀川の流域委員会などで行なわれているような公募による委員の選出や、多様な意見聴取方法の採用なども今後は検討していただきたいと思っております。

科学者や地域住民だけでなく、天塩川河口部の漁民たちからもサンルダム建設に反対の声が出されておりますことは、サンルダム建設を一方的に推進してきた北海道開発局のこれまであり方が強く批判されている証拠であります。北海道開発局は、現在、道東の釧路川、標津川などで、直線化された蛇行河川の再生を行なうなど、率先して河川の自然再生事業に着手しております。一方でそのような自然再生を行いながら、他方、もっとも自然度の高い河川である天塩川・サンル川の自然を破壊するサンルダムの建設を強行するならば、現在一定の評価を受けている自然再生事業への支持や信頼すら失ってしまうことになるのであります。国土交通大臣におかれましては、事業を担当する北海道開発局に対し、議論に必要な情報はすべて速やかに開示するとともに、河川法の精神を生かした公正で透明性のある検討を住民参加で行い、サンルダムの建設についてはまず計画に対する論議を尽くすようご指導いただきたく、ここに要望させていただきます。

2005（平成17）年 5月13日

『サンルダム建設を考える集い・実行委員会』 代表 渋谷静男  
『下川自然を考える会』 会長 桑原友一  
『名寄サンルダムを考える会』 代表 竹内和郎  
『サンル川を守る会』 代表 橋本泰子  
『自然・文化ネットワーク』 代表 佐々木 聡  
『遊楽部川の自然を守る会』 代表 稗田一俊  
『大雪と石狩の自然を守る会』 代表 寺島一男  
『北海道の森と川を語る会』 代表 小野有五  
社団法人『北海道自然保護協会』 会長 佐藤 謙  
『旭川・森と川ネット21』  
社団法人『北海道スポーツフィッシング協会旭川ブロック』 代表 山田直佳